

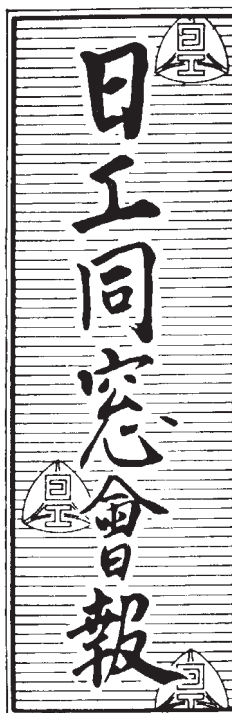
小平浪平翁記念会へ書籍を贈呈



小平浪平翁記念会(大川)会長(左)と今泉会長

9月30日(土) 本部会員運営委員会発足30周年記念行事で日立製作所創業社長小平浪平翁生誕地見学バス旅行を実施した。生家見学後に栃木市立「文学館」を見学した。栃木市出身で日立製作所の創業者小平浪平氏(1874～1951)に関する資料を展示する「小平浪平翁記念室」が市立文学館1階に設けられ、2022年8月に日立製作所の東原敏昭取締役会長、大川市長も参加されテープカットが行われた。記念室には、創業期に造られた5馬力モータ(複製)や、小平氏の胸像等が展示されている。このバス旅行を計画する中で6月に下見で文学館を訪問したが小平浪平氏著書の「晃南日記」がガラスケースに入っていたのが印象的であった。そこで日工同窓会の会報や記念誌等を小平浪平翁記念会に贈呈し、後に文学館に置いてもらいたいということで下記の著書12冊を準備し贈呈した。

小平浪平翁記念会は、平成29年(2017)10月5日設立、栃木商工会議所に事務局をおき、会長には大川吉弘氏が就任。小平翁の功績と



第461号

2023年12月8日発行
日工同窓会広報委員会
編集責任者

瀧澤 之靖 敦
発行人 細金 敦

日工同窓会事務局
日工同窓会館
〒317-0077
日立市城南町5丁目14番13号
TEL (0294) - 21-5237
FAX (0294) - 21-5241
E-mail:
dosokaij@net1.jway.ne.jp
http://nikkoudousokai.net/

印刷所
大成印刷株式会社

今号の主な内容

小平浪平翁記念会へ書籍贈呈	1面
表彰・国際大会選考会・那珂支部 実習生歓迎バーベキュー	2面
日立・那珂支部ビアパーティ	3面
佐和支部ビアパーティ・ 在会10・25年同期会	4面
学校だより	5～8面
本部会員の頁	9～12面
日専校歴史写真 表彰・職制任用・ 会員の消息・編集後記	13面 14面

ものづくりへの経営理念を次世代に向けて顕彰し、「経営者を志す若者の人材育成に貢献する」とともに「地方経済の発展を図る」ことを目的としている。令和2年1月に開塾した「晃南塾(塾長:福山裕幸氏(日立製作所 名誉顧問)」では、毎月定例の勉強会を実施している。

日工同窓会は、本記念会に平成30年12月に入会している。

当日は、栃木商工会議所より大川特別顧問をはじめ、國保専務理事、和久井係長、手塚主任に休日のところ来館いただき同窓会今泉会長から記念会大川会長に目録が贈呈された。贈呈した著書は以下の通り

一、晃南日記 著書:小平浪平
一、日立回想録 著書:高尾直三郎
一、技術王国をつくった男

- 創業:小平浪平伝 著書:加藤 勝美
- 一、日立工場75年史 発行:日立工場
- 一、日工同窓会戦前の会報その一 発行:日工同窓会
- 一、日工同窓会戦前の会報その二 発行:日工同窓会
- 一、日工同窓会戦後の会報 発行:日工同窓会
- 一、日専校100年のあゆみ 発行:日立工業専修学校
- 一、われら日立の底流たらん 発行:日工同窓会
- 一、35周年記念同窓会報 発行:日工同窓会
- 一、日工同窓会50周年記念誌 発行:日工同窓会
- 一、日工同窓会100周年記念誌 発行:日工同窓会
- 同窓会本部としても小平浪平翁記念会を支援し、互恵関係を継続していきたいと考えます。
- 最後に記念会並びに栃木市の益々のご発展を祈念し御礼申し上げます。
- 事務局:石井 浩(58卒)



同窓会ホームページはスマートフォン等からも上記のQRコードを読み取るだけで簡単にアクセスが可能です!

◎秋の褒章 黄綬褒章受章

令和5年度秋の褒章に同窓生より2名の方が受章されました。

・佐川 宏智氏 (66卒)

日立産機システム受変電制御
システム事業部製造部

・滝 安夫氏 (70卒)

三菱重工GTC事業部
発電機製造部

◎厚生労働大臣表彰「現代の名工」

卓越した技能を持つ「現代の名工」が11月10日に厚生労働省から発表

・渡辺 誠二氏 (70卒・日研支部)

・高橋 忍氏 (72卒・那珂支部)

次号にて詳細報告

◎令和5年度茨城県表彰

◎特別功労者表彰

・高柳 哲也氏 (104卒・日立)

「産業の振興」第46回技能五輪
国際大会「溶接」職種金賞受賞

◎知事奨励賞表彰

・塩澤 隼人氏 (103卒・土浦)

「産業の振興」第46回技能五輪
国際大会「CNC旋盤」職種銀賞
受賞

◎功績者表彰

・児島 強氏 (61卒・本部会員)

元日本労働組合総連合会茨城県連
合会会長、元茨城県労働者福祉協
議会会長

那珂支部

たさわ
田澤

だいむ
大選手(105卒)

「CNC旋盤職種」国際大会出場決定！



技能五輪国際大会「CNC旋盤職種」の日本代表選手選考会が10月8日から3日間にわたり三重県で行われました。この選考会は、昨年の全国大会「旋盤」職種において上位入



左から酒井指導員(97卒)、田澤選手(105卒)、高橋指導員、木村指導員(101卒)

2023 CNC旋盤 代表選手選考会 総合成績

No	会 社 名	氏 名	総合得点	総合順位
①	(株)日立ハイテク	田澤 大	208.950	1
②	トヨタ自動車(株)		197.538	2
③	トヨタ自動車(株)		192.192	3
④	三菱重工業(株)日立工場		184.525	4

賞者4名が、国際大会に準じた方法で競技を実施し、2024年に開催される技能五輪国際大会(フランス/リヨン)の「CNC旋盤」職種へ出場する選手を決定するものです。結果は、トヨタ自動車、三菱重工業を破り、見事1位を獲得し国際大会出場を決めました。日立を代表して出場した田澤大選手(105卒)並びに指導員に敬意を表します

那珂支部 実習生歓迎バーベキュー開催！

10月4日(水) ホテル クリスタルパレスにて10月から配属となった実習生の歓迎バーベキューを実施した。参加者は実習生15名、今年度入社の108回卒会員、支部役員関係者に加え、日専校からは今泉校長、HH T担当の真田先生、HMS担当の高橋先生にも参加をいただき総勢42名での実施となった。

最初に宮内支部長(78卒)より実習生に向けて歓迎の挨拶、今泉校長からは学校の近況報告と実習生を引き受けてくれる配属先の先輩たちに向けて感謝の言葉をいただいた。今年度入社した黒木さん(108卒)からは実習生に向けて「自分達も1年前のこの時期は、期待と不安でいっぱいだった。何か困ったことや不安なことがあ



ればいつでも自分達を頼ってほしい」と暖かいメッセージが送られた。その後、参加者全員で元氣よく乾杯し懇親のバ



ーベキューがスタートした。

当日は、あいにくの雨模様で飲食は室内を利用し、全員が屋外で

のバーベキューとはならなかったが、諸先輩方が実習生の為に肉を焼いては運んでと息の合った連携プレーを見せていた。ある程度お腹が満たされてくると、実習生の方からも先輩に話しかける様子も見受けられた。実習生と先輩会員の間では、部活動や寮生活での思い出、印象の強かった先生についての話題で大いに盛り上がりつつあった。実習生からの自己紹介では、所属していた部活動や技能五輪に挑戦することへの意気込みなどを聞くことができた。新人らしく緊張しながらも「よろしく願います！」と日専校らしい大きな挨拶を聞くことができた。翌日も実習生は笑顔で元氣に出勤し、その表情を見ると少しは緊張もほぐれたように感じた。4月には、彼らを109回卒会員として迎え入れ、来年一緒に実習生の歓迎会を実施できることを楽しみにしている。

記・安藤 泰 (94卒)

日立支部 「納涼ビアパーティ」開催される！

7月28日（金）、ホテルテラスザスクエア 日立にて、「納涼ビアパーティ」を開催しました。日工同窓会日立支部として2019年7月依頼、4年ぶりの開催であり、コロナ禍以降では最大規模のイベントとなります。今年最大のイベントとして計画を進め、全体案が纏まりかけた矢先、7月に入ると全国的なコロナ感染者の増加というニュースが聞こえ、『本当に開催していいのか』という迷いも生じましたが、会員の方々に日工同窓会としての活動を楽しんでいただきたいという強い想いから断念する事無く、当日を迎え



ています。大きな不安を抱えての開催となりましたが、当日は事業所幹部をはじめ、議員団の皆様や各組合執行委員長他、多くのご来賓の方々にもご参加いただき、約110名による大盛況なビアパーティとなりました。歓談後、寮歌を斉唱し、万歳三唱で散会となりましたが、会員の皆様から『楽しかった』『来年も頼む』といったご意見もいただき、日立支部として「納涼ビアパーティ」を開催できたことを嬉しく思っています。新型コロナウイルスも第五類感染症となり、少しずつ以前の生活に戻りはじめています。引き続き、日工同窓会日立支部として会員の皆様に楽しんでいただける活動を続けていきますので、ご支援ご協力をお願いいたします。



記：野村 公彦（77卒）

那珂支部 納涼ビール祭り開催！

来たる8月2日（水）ホテルクリスタルパレスにて毎年恒例であった那珂支部ビール祭りが開催された。新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの開催ということもあり、当初は参加人数が集まるのか心配の声もあったが当日は、会社からも那珂地区生産本部の堀本部長をはじめ多くのご来賓の方にも参加頂き、日専校からも萩谷教頭先生、高橋先生に参



模での実施となった。

開催に当たり宮内支部長（78卒）より挨拶があり、久しぶりに対面でのビール祭りを開催できることへの感謝と、今年から通常活動を再開し、同窓生同士の繋がりを活性化していきたいとの熱い思いを語った。乾杯の音頭は、今年度に入社になられた高橋忍さん（72卒）の発声で懇親がスタートした。



那珂支部としては、この4年間でマリンサイトが新設されたことにより職場が離れてしまった会員もいたが、久々の再会に各テーブルでは思い思いの胸の内とビールを口にしながらかきながら話で盛り上がりつつあった。新入会員紹介では4年間の行事自粛により紹介の機会が無かった、105〜108回卒会員に自己紹介をしてもらい、皆緊張している様子



であったが、個性豊かな面々が「おばんです！」と元気な挨拶を行った。恒例の抽選会では、豪華賞品の当選者が発表されるたびに喝采が上がり、一番の盛り上がりとなった。

最後には、鎌田政人さん（74卒）の指揮で全員が肩を組みながら日専校校歌・寮歌の合唱を行い、軍司副支部長（77卒）の締めで祭りに幕を下ろした。運営に当たった支部役員は、4年ぶりの行事実施に当たり苦労や不安も多くあったが、笑顔で散会する会員を見て改めて本会が再開できたことをうれしく感じたと同時に、また来年も多くの参加者を募り盛大に開催できることを楽しみにしている。

記：安藤 泰（94卒）

佐和支部納涼ビアパーティ開催

新型コロナウイルスの影響により、自粛せざるを得なかった日工同窓会佐和支部の最大のイベント、『納涼ビアパーティ』が今年度、4年ぶりに開催を果たしました。例年通り、夜勤者を考慮して週末の9月8日(金)と15日(金)の2週に分けての開催とし、合計198名の参加の中で盛大に実施する事ができました。

今回の開催、準備に辺り、大変不安がありました。それは、4年ぶりの開催による、準備経験者不足



第1回目の集合写真

です。支部役員も4年

前と大きく変化していることもあり、情報の

入手、さらにはコロナ

を鑑みた感染

予防をした上での開催というこ

とで、出来ることは何か等、やる

ことが盛りだくさんでしたが、そ

こは日専校の繋がりの

凄さを肌で感じました。年齢関係なく同窓会会員が一致団結して協力・

連携し、開催当日まではほぼスムーズに進めることが出来ました。本日に

日専校の繋がりがあって凄い！と改めて実感した期間でした。

そして、いよいよ1回目の開催当日です。こういった久々の開催には

何か問題が付きものとは言いますが、本当に起きてしまいました。台風直

撃です。天気予報で開催当日に台風が来ることも予報されておりまし

が、折りむなく、台風は直撃しました。しかしながら、実行委員の方



全な準備もあり参加予定の皆さんは、土砂降りの大雨、強風が吹き荒れる中、びしょ濡れになりながら参加いただき、大きなトラブルも無く無事終了できました。きっと忘れられない納涼ビアパーティになったと思います。そして、こんな大変なシチュエーションを乗り越えた私たちはもう怖いものなしです。2回目の開催については、問題なく、楽しく開催し、無事終了することができました。



第2回目の集合写真

久々の同窓会会員との顔合わせ、肩を組んでの校歌・寮歌斉唱は皆さんにとっても、とても充実した思い出に残る納涼ビアパーティになったと思います。来年こそは、晴天での開催を祈って更に佐和支部の発展と同窓会会員の親睦の場を継続して実施したいと思います。

記・鈴木 常右(73卒)

在会10年同期会を開催

2023年6月3日(土)に、ホテルテラスザスクエア日立において在会10年(99卒)同期会が開催されました。開催前日に日本列島へ接近した台風2号の影響により公共交通機関が乱れ、遠方の参加者が参加できない事態になるトラブルがあつたものの13名が参加しました。



ここ数年はコロナ禍により集まる事ができない状況が続いており、久々に集う同期会は様々な話で大変盛り上がりしました。次回開催する際には、もっと多くの人数で盛大に開催できるようにそれぞれが声掛けなどしていきたいと思います。

最後に同期会の取りまとめや企画をしていたいた同窓会本部をはじめとする皆様に感謝申し上げます。

記・櫻庭 健吾

在会25年同期会を開催

7月8日(土)に勝田駅近くの馬肉料理 茨城地酒 一九において、在会25年を迎えた84卒の同期会が開催された。同期会の参加人数は5名の少数となつてしまったため、居酒屋での飲み会形式の開催となったが、新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行した事で、制限が緩和され集まったことに感謝したい。乾杯から始まり、記念撮影のあと歓談となった。学校での思い出や会社生活そしてプライベートなどの話に花が咲き、楽しい時間はあっという間に過ぎていった。我々84卒は43歳になる年であるため、会社でも中心的存在になり、タイミングが合わない人が多く少数参加になったのだと感じている。



今回のメンバーでLINEグループを作成した。みんな同期メンバーを招待し、次回はもっと多くの

の同期と語り合いたい。

最後となりますが、同期会開催にあたり同窓会役員の方々には、多大なるご尽力を賜り心より感謝申し上げます。

記・村上 貴

学校だより

2023年9月から11月までの 資格試験一覧

この期間に日専校生が取り組んだ資格・検定試験の一覧を記載する。

●9月3日 品質管理（QC）検定4級（3年）

●9月5日 技能士2級電子機器組立て実技（3年電気科）

●10月6日 実用英語技能検定1次11月5日2次（全学年）

●10月13日 リスニング英語検定（2年全員）

●10月23日 溶接技能者評価試験（JIS検定）（2年溶接科）

●11月17日 計算技術検定（1、2年）

1年生工場見学

9月6日、日立ビルシステム水戸事業所様にご協力いただき、生徒は貴重な体験をすることができた。コロナ感染も落ち着かない状況、または業務多忙の中で、本校生の見学を受け入れてくださった事業所の皆様に御礼申し上げます。この見学は、1学年後期10月からの科分けに関するキャリア教育として、「工場を訪問し、実際に現場を見学すること」で、より正しい認識を持たせること。「自分のキャリアを考えさせ、科選択につなげていけるように



1年生工場見学

すること」を目的としている。電気・機械・溶接の各現場を見学させていただき、生徒は将来の働くイメージが構築できたようである。以下、帰校後のグループワークで出た感想を掲載する。今の気持ちだけで科を選ばずに、将来のことを意識しながら、自分が何をしたいかを考え、科を真剣に選びたいと思った。

- ・3年後に働いている自分を想像しながら見学をした。電気科だと考えていたが、今日の見学で他職場も興味深く、どの科を選ぶかをもっと深く考えようと思った。
- ・実際に現場を見学することで、仕事についてのイメージや「自分がやっていたら」などの想像ができ、科分け選択の材料になってとても良かった。
- ・工場見学を行い、様々な職種や役割があることを知り、自分の将来のイメージを膨らませることができた。

1年生は入学して半年経過したが、このような経験をすることができ、他校には無い「日専校で学んでいる醍醐味」を感じることができたと思う。学校での教育を元に、事業所との連携を活かして、各事業所へ優秀な人財を送り出せるよう指導していきたい。

2年生新リーダー研修会

後期10月から、3年生が学校を離れ、各配属工場で終日実習が始まる。学校は2年生が主体の体制に変わる。そのため、学校、寮、部活動の各リーダーをそれぞれ3年生から2年生主体に引き継ぐべく研修会を実施した。昨年度までは、学校は生徒会、寮は寮役員、部活動は部活動リーダーの3つの組織がそれぞれ運営していたが、今年度から、考動アクション委員会を立ち上げ、そこに学校、寮、部活動の各委員会を置き、統一して運営していくことに組織変更した。研修では、この1



部活動リーダー研修会

年間の振り返り、反省、これからの目標、計画などを、グループごとに議論し、最後に全体で発表して内容を共有した。3年生の旧リーダーには、この1年間、コロナ禍で例年通りに実行できない中、これを契機に運営方法をより良く見直し、実行してくれた。その努力に感謝したい。新体制にも良き伝統を引き継ぐと同時に、改善を実行し、生徒自身が有意義な学校、寮、部活動にできるよう、リーダーシップを発揮してほしい。

学校委員会「誰かのために すすんで考動できる人財」

委員長 2年電気科 猪口 健太



こんにちは。
学校委員会委員長になりました猪口健太です。まだまだ自分自身に足りない部分もたくさんあって、不安なこともあります。考動アクション委員会の4人の委員長と協力していき、新たな動きを取り入れていき、生徒全員が成長できる学校をつくりあげていきたいと思っています。また、一人ひとりがもつと主体的に動けるように、生徒の活動をサポートしていきけるように頑張っていきます！よろしくお願ひ致します。

寮委員会「みんなで作ろう 住みやすい寮」

委員長 2年電気科 草野 環太



こんにちは。
この度、寮委員会委員長となりました草野環太です。不安な所

は沢山ありますが、去年の良い習慣はそのまま継続して行い、問題点を改善していつて、より良い寮にしていきたいです。また、寮生活を通して寮生一人ひとりが人間力を向上できるよう、相互の指摘と気遣いを重視し、日専校生として高い基準をつくり上げていきます。今後も寮生活を通じて成長し続け、会社で必要とされる人間力を身に付け、良い人財を目指し頑張っていきます！これからもよろしくお願ひします。

部活動委員会「部活動を 通じた人間力の向上」

委員長 2年電気科 海老沼 凜乙



この度、部活動委員会委員長となりました海老沼凜乙です。今年から新しく始まる委員会なので不安はありますが、部活動をよりよい成長の場にできるように頑張ります。また、先生方や仲間と協力して、部活動をもっと盛り上げていこうと思っています。これからも部活動を通して成長し、日立グループの各工場で即戦力になれる人財を目指し、頑張っていきます。よろしくお願ひします。

2級電子機器組立て実技

技能検定「2級電子機器組立て実技」の資格取得をめざし、3年電気電子コース内22名は8月27日に学科試験、9月5日に実技試験に臨んだ。本校で行われた学科試験では、全員が日頃の学習成果を発揮した。電子実習室で行われた実技試験では、4月からの電気実習（実質80時間）を通して習得した技能を発揮し、全員が課題を提出できた。今年度は、昨年まで実施していた部活動時間や休日を利用した、いわゆる「補習」を排除することを決め、与えられた実習時間の中で効率的な技能習得を図ってきた。効率化を図る上で、昨年に引き続きIT機器の活用はもちろん、生徒自身が「安全、品質、納期、コスト」に視点をおいたPDCAサイクルを回す習慣付け等を行った。また、「工場で活きる技



2級電子機器組立て実技

能習得」をテーマに作業方法や使用工具の見直しにも取り組んだ。今後は、これまで習得した技術・技能のみならず「製品」に対する考え方を生徒各々が活かしてくれることに期待する。なお、本受験結果は、9月30日に茨城県職業能力開発協会HPに掲載され、12名が合格した。今後生徒の主体性を育んだ上で結果に繋げることが大きな課題となった。

若年者ものづくり競技大会 入賞者茨城県知事表敬訪問

8月に静岡県で開催された「第18回若年者ものづくり競技大会」に本校から出場して入賞を果たした後藤宙那（旋盤職種）、三代健人（フライス盤職種）、鴨川生、松岡怜良（メカトロニクス職種）の4名が9月15日に茨城県庁を訪問し、大井川和彦県知事に受賞を報告した。本大会は、学校などでものづくりを学ぶ20歳以下の学生および生徒を対象とし、競技内容は、制限時間内に与えられた課題の組立精度や出来栄などを競うものである。当日は、各選手より大井川知事へ、旋盤・フライス盤・メカトロニクスの競技の特徴や工夫点など、各職種の課題・写真を見ていただきながら丁寧で紹介した。最後に大井川知事より「今後も活躍を期待しています」と激励のお言葉をいただいた。選手4名は、「次は技能五輪全国大会で活躍し、また県知事に良い結果を報告出来るよう頑張

ります」と抱負を語った。



若年者ものづくり競技大会入賞者茨城県知事訪問

3年生工場実習前面接、 工場実習開始

例年、日専校では3年生になると、就職について現実的に意識し始める。部活動の、3年生にとっては最後の大きな大会と両立しながら、まずは6月の前期中間試験に力を注ぐ。夏休み前に実習先が決まり、履歴書の作成に着手する。夏休みが明ければ前期期末試験や、実習先工場の方との面接を経て、9月末に校内で3日間の実習前教育を受ける。この教育内で、校長先生の訓話、生徒指導・安全衛生講話により、実習に向けて気持ちを引き締め、整えていく。さらに外部講師を招いて、安全な社会生活を送るための知識を教示いただき、成人するにあたっての意識も高める。こうして、入学してからの2



AutoCAD基礎講座

年6ヶ月の学校生活を終え、今年10月3日、無事に全員が実習初日を迎えた。一緒に学んだ友とも離れ、社会に向けての第一歩を踏み出した。

AutoCAD基礎講座

9月25日、26日、日専校実習棟の視聴覚室において、AutoCAD基礎講座を開催し、3年生の技能五輪候補生および希望者17名が受講した。日専校では2年生までドラフターを使った手書きの製図実習を、3年生では読図の授業を行っているが、技能五輪の職種および事業所の職場でもCADを使った製図があることなどから、2021年度から本講座を開催している。2日間という短期間であったため、CADの機能を十分にマスターするまでには至らなかったが、受講生は興味を持って楽しみながら作図と読図を学べる有意義な体験になった。

1年生科分け、後期授業開始

1年生の前期半年間は、電気、機械、溶接の科分けをせず、専門科目や実習においても、全員が同じ授業を受ける。専門座学では「工業基礎」「電気回路」などで工業系の基礎を学び、実習では電気実習、機械実習（旋盤、仕上げ）で基礎的な技能を修得する。10月の後期からは3つの科に分かれて、より専門的な学習が始まる。そこに向けて、工場見学（電気機械、溶接の各配属現場を見学）、溶接実習体験、希望アンケート、生徒と担任との面談を経て科分けを行う。クラスとしては、電気科と機械溶接科（人数的に機械科と溶接科を1クラスとし、専門授業の時だけ分かれる）の2クラス体制となる。2年生も含めて、10月4日から後期授業が開始された。前期から続く科目もあるが、専門では新たに始まる科目もある。将来、自分が仕事とする専門分野なので、数学、英語などの一般科目も合わせて、基礎を理解した上で、より深く学習していってほしい。

1年生安全体感研修

日立事業所高等職業訓練校実習場2階で、1年生全員が6グループに別れてVR体感教育を受講した。安全の概要説明やVR教育を受け、日常では体感できない貴重な経験となった。今回の受講で生徒たちの安全意識も更に向上すると考える。

（7頁へ続く）

(6頁の続き)



1年生安全体感研修

1年機械科 黒崎 優人

私は今回の安全体感を受講して多くのことを知ることができました。講義では、講師の方が工場の安全の大切さを学校以上に詳しく教えてくださいました。また、災害の実例として、階段転倒、飛来落下、キックバックの3つについて、VRを使って体感することができました。どれも実際に起きたら恐ろしく、改めて災害の怖さを実感でき、これらを被災しないためにも良い経験でした。私はこの安全体感を通して、日頃のRKYの重要性を実感しました。これからは質の高いRKYを行い、事故や怪我を防いでいきたいと思えます。私たち1年生は、あと2年で工場実習が始まります。今回の安全体感を活かし、日々の学校生活の様々な場面で安全に気をつけて生活し、

工場生活に備えたいと思います。

田中憲一執行役常務

来校・講話

10月13日、日立本社より田中憲一執行役常務 Deputy CHRO 兼 人財統括本部人事勤務本部長が来校され、全校生徒と教職員へ講話をいただいた。「日立の概要と日専校の皆さんへの期待」と題された講話は、日立創業と日専校創立から始まり、現在の日立グループの状況、中期経営計画目標、求められる人財・組織像、技能五輪の実績と続いた。最後に日専校の生徒への期待として、①

ものづくり人財の重要度②デジタル化への対応③学び続けることで成長し、働きがい、生きがいを得ること④人間力を身に付け、仲間を信頼し、信頼される人になることを話された。講話の御礼として、考動アクション



田中憲一執行役常務来校・講話

委員会委員長の2年電気科崎川真之介が、日専校で学び続けて、日立グループで活躍できる人財になることを誓った。また、11月に愛知県で開催される、第61回技能五輪全国大会電気溶接職種に、日専校在校生として出場する3年溶接科の黒田大貴、佐藤琉両名が決意を表明した。田中常務は「日専校の皆さん、日立と一緒に成長し続けましょう」と生徒を激励されて会場を後にされた。

1年生社史見学

秋の好天に恵まれた10月19日、1年生の社史見学会を実施した。今年度は日立オリジンパーク・熊野神社・日鉦記念館をクラス毎に分かれて見学した。オリジンパークでは、各クラスを2グループに分け、それぞれ案内者をつけて説明いただくなど手厚いサポートをいただいた。また、熊野神社では神社説明、参拝の作法



1年生社史見学

に加え、日専校への応援メッセージまでいただき、大変に残る参拝となった。今回もスマホで回答するクイズが出たため、みな100点をめざし、興味を持って見学に臨んでいた。日専校では、社史見学会を日立製作所と学校の歴史を实地で学べる貴重な機会と位置づけ、今後も継続実施していく。

茨城県高校ソフトテニス
新人大会 男子個人戦第2位
団体戦ベスト8

10月下旬の県北地区予選結果により、団体戦（2位通過）と個人戦2ペアが県新人大会に出場した。初日11月3日の個人戦では、大内拓海（2年溶接科）・鈴木玲音（2年機械科）ペアは2回戦からの出場となったが、地区1位の實力を発揮して、2回戦から準々決勝までの4試合で、失ゲーム1と、圧倒して準決勝まで進んだ。一方の山本歩・嶋田龍聖（いずれも1年機械科）ペアは、地区予選で、ギリギリでの通過となったが、初戦（1回戦）を僅差で勝つと、2回戦では県西地区1位のペアを破ってベスト32となった。ベスト16入り（次大会シード）はならなかったが、地区予選後の努力が形になった。大内・鈴木ペアは、準決勝で王者・霞ヶ浦高校の主力ペアと対戦し、「ダブルフォワード」という変則的な陣形を取る相手に4-1で勝利して決勝に進出した。決勝では、霞ヶ浦の



茨城県高校ソフトテニス新人大会 男子個人戦第2位

エースで、1年生ながら団体にも出場したペアにゲームカウント3-2とリードするが、逆転を許して惜しくも準優勝となった。県個人戦におけるベスト4以上の進出は、創部初である。11月4日の団体戦初日では危なげなくベスト16まで進み、2日目へ勝ち残った。本校は、ここ2年間の関東・インターハイの両県予選においてはベスト8以上であったが、新人大会だけはこの壁を破れていなかった。そのため今回はベスト8入りを最低目標として取り組んできたが、2日目の初戦で鉦田一高に3番勝負の末に勝利し、念願のベスト8入りを果たした。新人大会では初のベスト8、初の県選抜インドア大会出場を決めた。個人戦はベスト8のうち6ペアが霞ヶ浦高校、団体戦も強豪私学がひしめく中、他校と

(8頁へ続く)

(7頁の続き)

比較し、様々な面でハンディキャップがある中で、「何苦楚(なにくそ)精神」を持って取り組んでいる選手を讃えたい。中国古典の『詩経』には、「初め有らざるなし克(よ)く終わり有る鮮(すくな)し」とあり、「何事も始めるのは簡単だが、それを終わりまで全うする人は少ない」という意味である。簡単に物事を諦めたり、相手との力関係や課題の難易度で萎えてしまう高校生が多い中、部活の取り組みで「なにくそ」と踏ん張り、継続する力をつけて欲しい。近年、部活動のあり方が話題になっているが、人間力の向上を『目的』とし、それが競技結果『目標』につながることを信じたい。

技能五輪全国大会

電気溶接職種出場

23歳以下の若手技能者の日本一を決める大会である「第61回技能五輪全国大会」の電気溶接職種で、茨城県代表として3年溶接科の黒田大貴と佐藤琉の二名が出場した。千葉市の高度ポリテクセンターを会場に行われ、各企業の選手と肩を並べ、競技を行った。在校中に出場することが出来るのはこの一度だけであり、約2年間この日のために練習を行ってきたので、二人ともかなり緊張して競技に挑んだ。競技が進むにつれて落着きを取り戻し、若干のミスはあったが、練習の成果を出して、時

間内に課題を作成、提出することができた。今回の出場を目指すに当たり、一般の部活動と並行して練習に取組む特別活動として、時間が十分に取れない中で溶接が上手く行かずに落ち込むこともあったが、強い意志で出場を果たした。本番で今でできることができたのは、今後、本人たちの成長に繋がるに違いない。

3年溶接科 黒田 大貴

今回、技能五輪を経験して、様々な方々と繋がりを持てて、多くの経験や学ぶことができました。皆さんにサポートしていただき、大会に出場できたのは当たり前のことではないと思います。事業所に配属された後も技能五輪で金メダルを目指し、挑戦を続けたいと考えています。一日一日を大切に、結果で皆さんに恩返しをしたいと思います。技能五輪に挑戦して得られたことを、会社での生活にも活かしていきます。



技能五輪全国大会出場 左：黒田 右：佐藤

3年溶接科 佐藤 琉

私が技能五輪の活動を通して感じたことは、継続力、向上心の重要性です。訓練では同じことを何度も繰り返し行います。その中でこの二つが欠けてしまっていると、技能はなかなか向上していかないと感じました。工場に行つてからも技能五輪に挑戦し続けたいと考えていますので、継続力、向上心を忘れずに練習をして金メダルを目指します。工場生活でもこの二つを常に頭に入れて頑張っていきたいと思っています。

技能五輪全国大会見学

生徒を対象に技能五輪全国大会の見学を実施した。11月10日には、1、2年生の溶接科15名が千葉県の高度ポリテクセンターで行われた電気溶接職種を、11月11日には、1、2年生の希望者37名が茨城県の佐和グローバル教育センターで行われたブラシック金型職種を、11月15日には、1、2年生の機械科38名が同じく佐和グローバル教育センターで行われた精密機器組立て職種を、それぞれ見学した。見学対象者は、日頃、学んでいる実習に関係の深い職種の競技を対象として選定した。いずれも全体開会式の前から行われている競技であったためか、見学者は参加した企業関係者が多かったが、全国大会独特の張りつめた空気があり、見学した生徒にもその緊張感が伝わったようであった。数年後に自

分たちが全国大会に出場するイメージを、今の時点で具体的に持つことは難しいが、「挑戦してみたい」との声も多く聞かれた。



技能五輪全国大会見学

日専祭保護者会

11月18日、恒例行事である、日専祭保護者会を開催した。今年度も在校生家族のみの入場としたが、家族ごとの人数制限は設けず、4年ぶりに盛大に実施できた感がある。午前中は各科に分かれた実習授業参観、体育館での全体会およびステージイベント、午後は部活混合で4種類のレクリエーションを行った。イベントは全て生徒考動アクション委員会が事前に話し合い、準備を進めてきた。特に体育館ステージでは、全4クラスが動画、歌、ダンス等を交え、素晴らしい発表を披露した。締めくくりは、日工同窓会の先輩方によるお心遣いの抽選会を実施した。



日専祭保護者会

新任者紹介



富田 健一先生
出身事業所…三菱重工業(株)
担当…製図実習
10月より三菱

重工業株式会社から出向にて異動し、日専校で働かせていただくことになりました。初めて教育の現場に入ることとなりますので、不安なところはございます。しかし、生徒たちと一緒に日々努力し、少しずつでも成長していきたいです。沢山の卒業生と同じように、職場で活躍できる人財を送り出せるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

本部会員運営委員会発足30周年記念

「小平浪平翁生誕地見学バス旅行」行われる

9月30日(土)、本部会員運営委員会発足30周年記念事業として、「小平浪平翁生誕地見学バス旅行」が行われた。

今泉会長、鈴木代表副会長他39人を乗せた観光バスで東海駅、大みか駅を経由し最終乗車地の日立駅を出発、栃木県都賀郡合戦場にある「小平浪平生誕地」へ。以下、立ち寄り先での様子を報告する。

小平浪平生誕地

まず、生家向かいの合戦場郵便局の駐車場をお借りし記念撮影。

生家入口では、昭和35年に日立製作所創業50周年を記念して、当時の副社長高尾直三郎により建立された「小平浪平生誕地の碑」と対面。

碑の後ろに据えられた小平浪平翁が神峰山から日立の街並みを眺めた時に座った石「浪平翁パワーストーン」に触れ、浪平翁のパワーのお裾分けをいただいた。

小平浪平翁生家前にて

生家母屋の裏手には浪平翁が幼少期に使用した「勉強部屋」が現存しており、今は日立オリジンパーク内に復元されている「創業小屋」と造りがそっくりなのに驚かされた。この「勉強部屋」で純国産の電気機器の製造を夢見ていたと思うと、身が引き締まる思いがした。

栃木市立文学館

栃木市立文学館は、旧栃木町役場庁舎で、市ゆかりの作家の作品や資料を展示しており、1階には市史に足跡を遺した先人の展示やライブラリーコーナーがあり、小平浪平翁に関する書籍や資料も展示されている。今回、日工同窓会で所有している書籍を贈呈することになり、管理者の小平浪平翁記念会・大川吉弘会長に今泉会長から目録の贈呈式が行なわれた。

【栃木市立文学館玄関前にて】

最前列左より3人目が小平浪平翁記念会大川会長、4人目が小泉会長



岩下の新生姜ミュージアム

岩下食品(株)の企業博物館。テレビCMでもお馴染みの「岩下の新生姜」をテーマにした展示・アトラクションが楽しめる。定番の新生姜の酢漬けの他、刻み新生姜のビン詰めや新生姜割りハイボール等もあり、今回の旅行のお土産として人気であった。



足利フラワーパーク

時期的に見るものはほとんど無かったが、昼食場所として立ち寄り、園内を散策した。



豪華な昼食

史跡足利学校

平成27年、水戸弘道館、備前閑谷学校、日田咸宜園とともに「近世日本の教育遺産」として日本遺産に認定され、更に世界遺産を目指して取り組んでいる。日本最古の学校として「自学自習」の精神を今に伝えている。



足利学校門前で



帰りの車中はアルコールも入り、和気あいあいの雰囲気の中、カラオケが始まり、最後は榊原愛正氏(53卒)のハーモニカ伴奏に合わせ、寮歌の大合唱で今回のバス旅行を締めくくった。

第49回
「わが宿の集い」

人生百年時代、如何に生きるべきか

元日専校教諭の行田 豊氏が講演

3年振り、懇親会も盛大に

11月11日(土)、「わが宿の集い」が参加者61人の下で盛大に行われた。今年度は、本部会員運営委員会発足30周年記念バス旅行が実施されたため「わが宿の集い」は、今回の1回のみとなることから、企画小委員会を中心に趣向を凝らした内容の濃い企画となった。
3年ぶりのアルコールの入った懇親会では、久し振りに校歌・寮歌の合唱が同窓会館に響き渡った。

◇第一部 講演会



メインとなる講演会については、元日専校教諭の行田 豊氏を

講師に迎え、「人生百年時代、如何に生きるべきか」(副題「幸せ・健康・やささ・喜び・楽しさを求めて」)と題した講演をいただいた。

行田氏は、日立製作所創業50周年時に入社。1960〜68年の9年に亘り日専校で教鞭をとられた後、日立ライフ勤務を経て、日立ゴルフクラブの社長として活躍された。

2021年に6社に及ぶ現役生活に区切りをつけて、現在は日立市社会教育委員会協議長、茨城県社会教育委員連絡協議会理事他の要職を



ジャンケンで行田氏自筆の色紙をゲット

担っておられる。人生百年を有意義に生きるためには、何でも話せる友を持つ、健康な体を維持する、右脳(絵画的、直感的、総合的な判断をつかさどる)を活性化させることが重要であるといわれた。

講演の終盤では、行田氏とのジャンケン勝負で行田氏自筆の色紙が配

られ大賑わいとなった。その後、参加者全員にも色紙のプレゼントがあり、盛況のうちに講演会が終了した。



懇親会の前に同窓会館玄関前で

◇第二部 懇親会

コロナ禍後、初めての開催であり、懇親会は盛大に行いたいとの企画小委員会の思いが表現された素晴らしい懇親会となった。

従来は、つまみはほとんどが乾き物であったが、今回は企画小委員会の小室主査、斎藤委員の手によるおでん、たこ焼き、枝豆、調理パン、サンドイッチ等がずらりと並び、豪華な懇親会となった。

また、年代に配慮し、椅子席と立食席を設けたことで、ゆつくりくつろぐ先輩の姿が印象的であった。



手料理がずらり



手前が椅子席、奥が立食席



料理仕込み中



締めは恒例の校歌・寮歌



上野さん(46卒)の熱唱



講師の行田氏と



左から石井氏、藤氏、大森氏

第26回「NS会ゴルフコンペ」開催される!

— 3年ぶりに表彰式(懇親会)も実施 —

10月13日(金)、日立ゴルフクラブにおいて第26回NS会ゴルフコンペが行われた。

晴天、無風、さわやかな気温のもと21名が参加し学生時代の先輩・後輩の垣根を乗り越え、和気あいあいの雰囲気の中でゴルフを楽しんだ。

プレー後には3年ぶりに参加者全員での表彰式が復活。優勝他飛び賞、参加賞等の表彰が行われた。

成績は以下の通り。

優勝…藤 良典氏 (54卒)

準優勝…大森 晴男氏 (54卒)

第3位…石井 浩氏 (58卒)

ベスコ…大森 晴男氏 84打



今回、卒回毎で最多4人が参加した46回卒が6、9位を独占する珍事があり、表彰式の話題をさらった。

第6位…飛田 信博氏 (46卒)

第7位…永盛 栄一氏 (46卒)

第8位…上野 武氏 (46卒)

第9位…渡邊 一雄氏 (46卒)

NS会ゴルフコンペは、実施のたびに参加者数が減少しており、今年度、新たな企画として第1回を開催したグラウンドゴルフへの参加を呼びかけ、次回の再会を期して散会した。

企画小委員会主査 小室 道男 (59卒)

49回卒 溶接科クラス会「三九会」

ルーツ探して盛り上がる

去る10月16日(月)〜17日(火)に、「いこいの村瀬沼」において、第16回「三九会」が開催された。

「三九会」は、昭和39年の第49卒業の溶接科の仲間が集うクラス会である。現役時代には、「溶接科クラス会」という名称のもとに集まっていたが、定年退職を迎えた17年前に、大半の仲間が日立で定年を迎えた訳でもないのに、名称を変えよう

となった。

本来なら、「四九会」と称するのが自然であるが、「四苦八苦」を連想したり、日本人の忌み数字の「4」と「9」が重なり、読みとなると「シグカイ」とか「ヨンキュウカイ」となっており、あまり語呂もよくない。

そこで卒業年の昭和39年にご縁を頂き、あらゆる事に感謝するという意味を込めて「三九会」とすることとした。

第49回卒業の同期会は、「サンキュウ会」と称して区別している。

これらの命名には、第39回卒業の先輩の方々が集う「讃求会」と発音が同じになってしまつたので、当時の会長であった今は亡き篠木先輩に事情を話して、ご理解をいただいたことも懐かしい思い出である。

さて、卒業時には43名いた「溶接科」の仲間も、状況が把握できているだけでも既に9名が物故者となっている。今年も、毎回、返信をいただいている26名に案内を出したところ、行田先生を含めて10名の参加となった。

年々参加者が少なくなつて

来ているが、入浴時には、日専寮での浴場の話題になり、一気に十代の青春を取り戻すことが出来た。これがクラス会の醍醐味でもある。

夜の懇親会では、物故者の冥福をお祈りしながらスタートしたが、近況報告になると、今までは、わが身の病気の話が自慢話のように報告されたが、今回は様子が違ってきた。

それは、中田君が先祖様のルーツを調査しているという話をしたことから流れが変わって、その流れでそれぞれが自分の苗字のルーツや出身地の話を中心となり、今までになく盛り上がった。

いつもは、行田先生の話を中心になつていた感じであつたが、今回は、自分のルーツに関する話題が多くなつた状況でもあつた。

二次会では、石巻市から参加する城間君が毎回持参する「蒲鉾」を口に、夜遅くまで四方山話に花が咲いた。

翌日の朝には、今回は参加できないからという事で、帯広市在住の菊池君が、各人分を送ってくれた北海道の「六花亭」の銘菓とこれからの「元気の糧」を手土産に、お互いに元気で来年も再会する事を約して散会した。

最後に一句、
「冥福を祈り始まるクラス会
年々減るは参加人数」

記…鈴木 利文

同期会活動報告 (奇数卒回)

(9月15日に行われた2023年度前期「運営会議」で報告されたものです。)

◆39卒 (矢代 克己)

讀求会は、8年前の傘寿記念の総会を最後に解散し、有志で活動することにして、東京在住の仲間のお世話になり、3回ほど「東京ぶらり旅」を実施してきた。

今回、新型コロナウイルス対応が五類に移行して、活動がし易くなったのを受けて、4年ぶりに「ぶらり旅」を近場の会員で実施した。今回、私は都合で参加できなかったが、日立「オリジンパーク」の見学を主にして、その後母校に立ち寄り「八紘ヶ丘」に思いを馳せ、天地閣で懇親の会食をした。今回はすべてタクシーを貸切った移動とした。

開催案内を出した当初は10人ほどの参加希望者がいたが、当日は4人になってしまった。本人の健康状況もあるが、高齢になると連れ合いの健康上、状況により行動は制約される面が出てくる。

懇親食事の際にはこれからも動ける会員で無理のない範囲で集まろうとなった。

◆43卒 (綿引 明)

行事としては、年2回・春秋のゴルフのみ継続中。常陸太田のグランドスラムCCにて参加者10人前後、今秋は、10/5実施予定。

◆45卒 (田所 賢二)

1. 4年ぶりに第11回目の同期会を実施

令和5年6月26日「ホテル テラス ザ スクエア日立」で28人が参加して開催。遠くは静岡、東京からも参加した。尚、我々も82歳を迎え体力、健康を含め諸般の事情で皆が一堂に会する困難ではないかとの理由で今回をもって同期会は一応最終回とすることとした。

2. 同期会ゴルフ

定期的に日立近辺のゴルフ場で開催。参加者は8～10人。

◆47卒 (川村 豊)

2023年5月18日、久慈サンピア日立にて傘寿を祝う会を開催した。

対象者は、退職時に国分・大みか・日研に在籍の13人で9人が出席した。

纏め役は、発足時(20人)から瀬谷武司さんをお願いしており、感謝また感謝である。

◆49卒 (鈴木 利文)

1. 49回卒同期会「喜寿の集い」を開催

実施日：令和5年2月10日(金)

場 所：ホテル テラス ザ スクエア日立

参加者：行田先生を含め28人(詳細内容は会報458号参照)

2. ゴルフ交流会 (サンキュウ会コンペ)⇒年4回程度開催

第31回(R5.1.12) オーシャンゴルフで9人

第32回(R5.4.6) オーシャンゴルフで7人

第33回(R5.7.6) オーシャンゴルフで8人

第34回(R5.10.5) オーシャンゴルフで予定

3. 幹事会の開催：会場は同窓会館や飲食店を利用

同期会の幹事(7人)は、各種打合せや懇親を深めるために年4回程度開催している。今年は1/17、3/21、8/22、10/5(予定)に開催

4. その他

溶接科クラス会として現役時代から交流していたが、定年退職を機に「三九会」として再スタート。コロナ禍で一時的な中断はあるものの今年の10/16には、第16回の集いを「いこいの村酒沼」にて開催予定。

◆51卒 (金澤 和彦)

6/17(土)水戸で7人が参加して幹事会を実施した。その席上で久し振りに同期会を実施しようとの提案があり、常陸大宮市の秘境の宿「湯の澤鉱泉」で10/20一泊同期会を決定。現在、出欠確認中です。

◆53卒 (榊原 愛正)

毎年の様に同期会を実施していたものの、長い間ご無沙汰していると気力が萎えてしまった感がある。

最近、何人かの同期生から「早くやれ」と言われ、重い腰を上げねばと思っている。ただ以前に比べ体調の悪い同期生が多くなり、参加者はかなり減るのではと危惧しているが、後期高齢者となる年齢となり気にしないで

実施したい。コロナ感染者数が気になるが今年度中には是非実施したい。

◆55卒 (梶山 義一)

幹事6人による『どうする第9回同期会開催打合せ』

・3/10・11～6/6まで5回実施

・5/9には佐和駅前にて旅割セーフ、補助金利用可確認

・6/23・24『鶴の岬』18人出席で開催できた。

・7/3次回幹事会計画開始し、9/22・23奥鬼怒川温泉「加仁湯」予約完了

◆57卒 (石井 保)

同窓会活動ご苦勞様です。コロナ禍の中でもゴルフ同期会を開催している。

古希の年齢になり健康維持に毎月月末に開催致している。参加者募集中。幹事長「緑川」又は、「石井」まで。

◆59卒 (小室 道男)

2022年11月12日(土)～13日(日)国民宿舎「鶴の岬」にて4年振りに59回卒同期会を開催。

当時は、地域旅行支援を活用して格安にて開催する事が出来た。

新型コロナ感染を考慮して「カラオケ無し」等対策を講じた。

新型コロナ感染を心配して家族の反対等を受け前回より7人減の参加者20人で開催。

2023年は、開催行事なし。

次回、2024年11月開催予定だが、ホテル価格の高騰により開催場所を検討中。

*「1回/2年なので、豪華にやりたい」と「格安にして参加者を増やしたい」と意見が分かれている。

◆61卒 (児島 強)

今年に入り、コロナ禍が小康状態となってから、活動を開始。

4月15日(土)に懇親会を兼ね、幹事会を日立市居酒屋寧々屋で開催した。

今後の計画として、①同期会総会の開催について、②同期会ゴルフについて(61回杯)、③その他(消息と連絡先把握、本部会員への加入)等々について議論を行った。

次回幹事会は、10月14日開催予定であり、更に、議論を深めていく。また、10月のNS会ゴルフは1チーム参加予定にある。

◆63卒 (箭内 光人)

63回卒は、丁度コロナ感染が始まった2020年3月に60歳定年を迎えた。

これまで全体で集まったことはなく、第1回全体集会を開催すべく下記日程で幹事会を開催した。

第1回：2020年9月5日(土)

「ハルモニア」、参加者：(宮本)(大町)(箭内)

第2回：2020年10月3日(土)「虎徹」

第3回：2020年11月7日(土)「虎徹」

第4回：2023年4月22日(土)「富屋」

一般的にはコロナ前の行事に戻りつつあるが、もう少し落ち着いた時点で第1回63回卒全体集会を開催したい。目標は、12月の忘年会の時期。

◆65卒 (堀江 弘昭)

同期会ゴルフ

4/28 石岡ゴルフ倶楽部 14人参加

7/22 グランドスラム 12人参加

10/14 桂ヶ丘カントリー 8人参加予定

同期懇親会

7/28 事業所幹事会・懇談会を実施

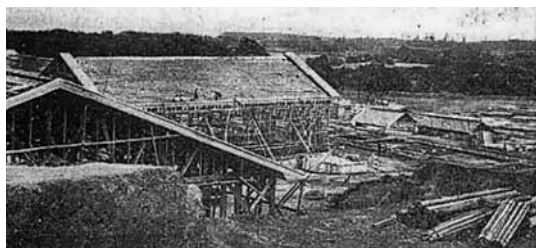
(大みかアンブロッシェで8人参加)し、今年度は同期会開催を決定。

10/27 勝田「いさみ」で実施すべく近々案内発行予定。

ー 編集小委より ー

9月15日の運営会議で報告された内容であり、本ページ内の「計画」や「予定」としていたことが既に実施済みとなっていることがあります。

日専校歴史写真【11】「芝内から成沢へ 創立30年二代目校舎新築」1940(昭和15)年



1939(昭和14)年7月 二代目校舎新築作業

【新しい校舎と寮舎】

1939(昭和14)年、芝内の山手工場の一角にあった日専校は、校舎、寮舎ともに狭隘となり、新しい場所への移転が検討されていた。候補地は海に臨んだ八反原(現在の国分工場付近)と山側の成沢とに絞られたが、最終的に成沢の土地3万坪を購入して、新校舎の建設が開始された。そして、1940(昭和15)年3月にはほぼ完成し、移転を行なった。

新しい校舎と寮舎の概要は次の通りである。校舎は二階建一棟675坪、体操場は平屋建一棟135坪、寮舎は生徒寮二階建二棟496坪、事



1940(昭和15)年 新しい校舎と寮を臨む



1940(昭和15)年 二代目校舎

務寮二階建一棟270坪、食堂平屋建一棟208坪、浴場平屋建一棟80坪、その他、賄員宿舎、倉庫などがあつた。移転当時、建物はまだ完全にはできていなかったため、生徒たちの朝の洗面は学校の下を流れる鮎川まで

行っていた。水道も山の湧水をタンクに上げた自家用の簡易水道だったので、味噌汁の中にオタマジャクシが入っていたという話もある。

【学校創立30年、校舎新築落成会】

成沢の地に新校舎が完成、学校創立30年に当り、新築落成も記念して、第9回生徒成績品展覧会も開催された。新校舎は関東以北随一の規模と施設を誇り、海軍大将、陸軍大臣、司法大臣、侍従など、当時の要人が相次いで視察に訪れた。

この新校舎から初めて卒業した28卒緑川勝弥氏の自分誌「轍(わだち)」が日専校に寄贈されてある。この中に、当時の生徒の状況、芝内から成沢の新校舎への引越し、生徒成績品展覧会が記載されている。抜粋要約して掲載させていただく。

『新しい仲間は総勢200名であつた。この仲間は日立を中心とする茨



1940(昭和15)年 校舎新築落成会



1940(昭和15)年 新しい体育館でラジオ体操する生徒たち

城、岩手、宮城、福島、長野、栃木、山梨の各県から集まった秀才たちであつた。能力を持ちながら経済的な事情で上級学校へ進学できなかった者や、体育が不得意で師範学校を諦めた者などであつた。出身地別では、日立市30%、多賀郡19%、久慈郡17%、那珂郡10%、西茨城郡5%、東茨城郡5%、新治郡4%、水戸・土浦・稲敷・結城・鹿島の各市郡の合計4%、茨城県外6%であつた。

昭和15年4月、私は待ち焦がれていた最上級生に進級した。そして、かねて成沢地区に造成中の新校舎、寮舎へ移転する日がやってきた。寝具一式、柳行李ひとつはトラックに積み、教科書、ノート、インク瓶の類は竹刀にくくり付け、肩に担ぎ、松並木の陸前浜街道(国道6号)の砂利道を南へ下った。3キロあま

りの道程は期待と希望に満ちて晴れがましく、遠足に似た楽しい気分であつた。何より嬉しかったのは、この丘の上から眺める日の出の光景が素晴らしかったこと、新鮮な空気を胸一杯に呼吸できることであつた。さらに幸運であつたのは、この新校舎から初めての卒業生として送り出してもらふことであつた。みどりに包まれた眺望絶佳の地は最高の教育的環境にあつた。成沢の丘にそびえ立つ、新校舎、寮舎は当時の学校施設としては極めて斬新なものであつたらしく、関係者の見学、来訪が相次いだ。

秋も深まるころ、学校創立30周年並びに新築落成記念と銘打って、第9回生徒成績品展覧会が新校舎で行われた。期間は1週間であつた。一般の学校の展覧会と異なり、生徒の実習先である職場の作品や製品そのものの展覧会であつた。展覧会の通知は生徒の父兄へ出ており、開会当日から多くの父兄たちが木の香も新しい成沢の新校舎に参集した。

※本連載では日工同窓会報(記念会報含む)から引用する場合があり
ます

【同窓会ホームページ 歴史写真館 ユーザー名: rekishi パスワード: oban100】

表
彰

◎厚生労働大臣表彰（現代の名工）

渡辺 誠一氏
（70卒・日研）高橋 忍氏
（72卒・那珂）

◎令和5年度茨城県表彰

・特別功労賞表彰（産業の振興）

高柳 哲也氏
（104卒・日立）

・知事奨励賞表彰（産業の振興）

塩澤 隼人氏
（103卒・土浦）

・功績者表彰（個人）

児島 強氏
（61卒・本部会員）

65期「日工専研修」合格者

◎電気・電子コース

山崎 大樹氏（106卒・大みか）

鈴木 尋斗氏（104卒・那珂）

富田 慎也氏（104卒・那珂）

橋本 紘明氏（104卒・佐和）

小野 真瞳氏（107卒・那珂）

◎機械コース

吉田 大樹氏（100卒・日立）

塩澤 隼人氏（103卒・土浦）

桐木平龍之介氏（104卒・建機）

塚本 夏輝氏（105卒・日立）

西田 駿真氏（105卒・土浦）

◎管理コース

鈴木 美希氏（105卒・建機）

◎会員逝去

謹んでご冥福を

お祈りいたします

◎本部会員

篠原 一氏（51卒）

23・8・30

秋山 哲男氏（40卒）

23・9・23

佐川 幸氏（32卒）

23・10・29

◎ご家族逝去

お悔やみ申し上げます

羽根田義博氏（74卒・佐和）ご母堂 23・8・23

年末を迎えるこの時期
▼今年は暑い日が長く
続き、一気に寒い時期
となり、「秋」無しの季節のようである▼一方で毎年熱
いこの時期は会報記載の技能五輪で
はないだろうか？毎年思うが後輩た
ちの活躍には脱帽以外無い。この熱
意、取組姿勢は、定年まで干支ひと
回りとなった自分への仕事に打ち込
む熱意の着火剤になってくれている
▼頑張っている後輩たちに負けぬよ
う、健康はもちろん体力維持に努め
たいと思う
（のり）▼技能五輪全国大会はコロナ禍の影
響により、直近3大会で関係者以外
の入場制限を余儀なくされてきた▼
無観客の大会と言えば東京オリン
ピックもそうであったが、観戦する
側としてはやはり盛り上がり欠け
る印象は否めなかった▼新型コロナウイルス
ウィルス感染症の5類移行により、
第61回技能五輪全国大会は4年振り
に入場制限の無い大会開催となっ
た。会場には選手の家族と思われる
方や、見学の中学生、ボランティア
の高校生など、多くの観客の来場
により、賑やかな大会が戻ってきた▼
一方、参加選手の多くは有観客での
大会経験がなく、雰囲気の違いに戸
惑い、力を発揮できなかったケース
もあっただろう▼当たり前の日常に
感謝しつつ、参加選手の健闘を讃え
たい
（昇）